

広告

企画・制作／  
読売新聞社広告局

# 医師が教える「美・健康ナビ」

医師による美と健康に役立つアドバイス「美・健康ナビ」を毎月1回、シリーズで連載しています。

## 第27回 眼瞼下垂症

日常生活での予防も大切

「まぶたを切らない治療法も」

「がんけん眼瞼下垂」とは、まぶたを持ち上げる筋肉（眼瞼挙筋）が弱まり、目が十分に開かなくなる状態のことです。先天性の場合もありますが、多くは加齢で起こります。

眼瞼下垂になると、眠そうに見えるたり、額の筋肉でまぶたを上げることで額に深いしわが入ったりすることがあります。さらにはごをあげて上から物を見がちになるので姿勢が崩れ、頭痛や肩こり、自律神経失調症などを引き起こします。

治療は、上まぶたを切開して眼瞼挙筋を固定する手術が多く採用されます。術後は腫れがあり、回復には時間が必要です。早めに症状や予算、スケジュールなどを専門医に相談し、ゆとりをもつて治療に取り組んでください。健康保険適用外の自由診療では、まぶたを切らない方法もあり、選択肢は広がっています。

コンタクトレンズや二重まぶたを作るための接着剤、花粉症やアトピーなどで目をこすることが原因になる場合もあります。眼鏡を使うなど、日常生活でまぶたに負担をかけないように心がけましょう。



こうしょう  
木下 孝昭先生

医療法人社団 孝昭クリニック院長  
医学博士